

はじめに

本推進事業は千葉県長生郡長柄町を推進地域とし、小学校(3校)、中学校(2校)、高校(本校)を推進校として、14、15年度にわたり委託されたものである。本校を含め専門高校においては、多くの教科・科目が体験を伴う授業として日常的に展開されており、本事業への参加は普段の授業内容・展開等について再考するのに良い機会であった。また、地域小・中学校との交流を通し、互いに理解を深め、人間としての優しさや思いやりの心を育むことが出来たと思われる。

本年度は事業の中間報告として、これまでの準備や活動内容についてとりまとめ、次年度の活動内容の充実に向けて活用していきたい。

1 地域と学校の特徴

本校が所在する茂原市は長柄町と隣接し、千葉県の中央に位置し、外房の中核都市として発達している。茂原市を含め、長生郡市における農業は温暖な気候と大都市近郊としての特性を生かし、水稻、野菜、花卉栽培が盛んである。

本校は、明治30年、千葉県簡易農学校として開校されて以来105年の歴史と伝統を有し、地域とともに歩んできた学校である。この間卒業生は、2万2千人を超え全国各地で活躍している。教育目標として、「豊かな人間性を持ち専門的知識、技術に習熟した実践力のある職業人の育成」を掲げ、地域との連携を図り、開かれた学校づくりを目指して、6学科6学級構成で、各学科の特性を生かした特色ある教育を展開している。設置学科は生産技術科、農業土木科、農業機械科、造園科、生産流通科、生活科学科の6学科で、また高等学校卒業後、2年間農業自営を営みながら農業の専門知識、技術を身につけるための、農業特別専攻科を併設している。

また、面積約15haの学校林を所有しており、スギ・ヒノキを中心として、生徒や職員による植林や間伐、枝打ち下草刈りなど育林管理作業等の演習林活動を通し農業教育を実践している。こうした施設や専門高校の特性を生かした、豊かな体験活動を推進する学校体制づくりが極めて重要なことであると認識して取り組んでいる。

2 教育課程上位置づけ

「豊かな体験活動」については、第3学年で実施している総合的な学習の時間で対応した。総合的な学習の時間は、2単位を課題研究、1単位を学年を対象とした講座制で展開している。平成14年度は、生徒の興味関心に配慮した20講座で展開しており、学科のカリキュラムの枠を取り払い、学校全体の取り組みとして実施している。今年度はその内の3講座を「豊かな体験活動」として実施した。

3 事業の概要(事業計画書の抜粋)

(1) 主に取り組む体験活動の種類

ア 自然に関わる体験活動

昆虫の飼育・観察などを通して、自然の豊かさを体験させる。

イ 勤労生産に関わる体験活動

動物・草花等の飼育・栽培に伴う勤労体験を通して、農業の未来に目を向けさせる。

ウ 交流に関わる体験活動

地域の小・中学校との合同観察・収穫体験などを通して交流を図る。

(2) ねらいや特に重点をおいたこと

- ア 地域の自然とのふれあいを意識的に計画し、自然の豊かさを肌で感じさせ、心の豊かさを育むこと。
- イ 家畜の飼育や草花の栽培をもとにした勤労体験をとおして、これからの農業のありかたを考えさせる。
- ウ 地域の小・中学生との交流を通して、人間としての優しさや、思いやりの心を育む。

(3) 活動計画

活動の種類(講座名)	活動の内容	活動の場所・対象
オオムラサキの飼育と観察	幼虫の観察と飼育 蝶の観察と飼育 産卵と放蝶(交流事業) 産卵幼虫の観察と飼育(交流事業) 越冬幼虫の観察(交流事業)	校内 校内 長柄町山林・小学校児童 校内、長柄町・小学校児童 校内・長柄町・小学校児童
乳牛・山羊・羊の飼育と観察	山羊・羊の出産・幼畜の飼育管理 成畜の飼育 毛刈り・搾乳・牧草の収穫調整 乳牛共進会への参加 体重・体尺測定 ミニ動物園の開設(交流事業)	校内 ・小学校児童
各種野菜の栽培と観察	ハーブの栽培と利用 ガーデニング 大豆の栽培と利用 手作り豆腐を作ろう 納豆づくりに挑戦	校内、大多喜町 校内、千葉市

4 展開

(1) オオムラサキの飼育と観察

オオムラサキは国蝶として親しまれてきた蝶だが、近年では身近に見ることが難しくなってきた蝶である。里山が荒廃したり、生き物が生息できる環境が破壊されてきたためである。本校では数年前より校庭の隅に飼育小屋をつくり、オオムラサキの飼育と保護に努めてきた。この飼育小屋での活動を中心に取り組んだ。

4月 冬眠から目覚めた幼虫の保護と観察

6月 蛹、羽化の観察

7月 蝶の飼育と観察

長柄町水上小学校との交流会

小学校児童全員対象に(本校生徒9名参加)、「オオムラサキを自然にかえそう」を実施した。各学年に1~2名の生徒が対応し、オオムラサキについての説明や、観察、



孵化直後の幼虫

スケッチなどの作業を通して交流を深めた。最後に児童一人一人が蝶を手に持ち、全員で放蝶した。

- 9月 幼虫の飼育と観察
- 11月 越冬幼虫の観察

(2) 乳牛・山羊・羊の飼育と観察

- 4月 山羊・羊の出産
乳牛の調教・毛刈り
羊の毛刈り
- 5月 乳牛の調教・毛刈り
長生夷隅ブラックアンドホワイト
シヨウ(長夷 BWS)への参加



共進会での牛のリード

今年で21回目となった長夷 BWS

は乳牛の改良促進と地域酪農農家の親睦を兼ね、本校の卒業生を中心に実施されている。有志で実行委員会を組織し毎年行われているもので、このように長期間継続している催しは全国的にも珍しいとのことである。本校生徒も牛のリード、デイリークイーン、アナウンス、審査補助員として運営に参加し、地域や卒業生との交流を図るなど、大変有意義な活動となっている。

- 10月 長生郡市乳牛共進会への参加
- 11月 千葉県乳牛共進会への参加
長柄町日吉小学校との交流会

本校にてミニ動物園を開設し、小学校児童(1,2年生)との交流会を実施した。小学校児童5名に対し生徒1名を配当し、時間内はその生徒にすべてをまかせることで対応した。そのことで生徒と児童との交流が深まり、優しさや思いやりの心が生まれた。後日、児童たちから心のこもった手紙や写真を頂き、さらに親睦を深めることが出来た。

(3) 各種野菜の栽培と観察

ハーブ類の栽培

アップルミント、レモンバーム、ラベンダーなどの播種、育苗、移植を実施したが、種類によっては発芽率の低いものも多く、栽培は簡単ではなかった。独特の香りのせいも、害虫の発生はほとんど見られなかった。ハーブに対する好みは個人差が大きく、興味深い。

大豆の栽培

6月中旬の種まき直後、集中豪雨により畑が冠水し、発芽不良となった。無農薬栽培を計画したため、7月から9月にかけて、コガネムシ、カメムシ等の寄生虫が大量に発生した。さらに、10月上旬の台風の被害で枝や葉がぼろぼろに痛みつけられ、11月末の収穫では、不稔のさやが多かった。害虫の寄生、開花期の天候不順、台風による被害など、自然界の厳しさや無農薬栽培の困難さを思い知らされた。

ハツカダイコンの栽培

10月から11月に、色、形、大きさの異なる8品種を選んで比較栽培をした。栽培は簡単で、短期間に結果が得られるもので、生徒にと

って楽しく充実した体験となった。
春の七草採集・寄せ植え

12月、水田のあぜ道、露地畑の空地、川の土手などを探索しながら春の七草を楽しく採集し、一部を鉢に寄せ植えした。

先人の生活の知恵を知り、自然に親しみ、その恵みを楽しむ良い機会となった。



春の七草の寄せ植え

5 学校支援組織委員会の組織・運営

推進地域の長生郡長柄町と連携し、学校支援組織委員会を組織した。委員会を開催し検討を重ね、小中高の連携を重視した事業を企画し、充実した運営が実施できるよう努めた。

平成14年度豊かな体験活動学校支援委員会

氏名	勤務先又は機関・団体名	職名	氏名	勤務先又は機関・団体名	職名
	長柄町社会教育委員会	委員長		茂原農業高等学校	教頭
	長柄町自治会長会	会長		茂原農業高等学校	事務長
	茂原農業高等学校後援会	会長		茂原農業高等学校	教諭
	茂原農業高等学校後援会	副会長		茂原農業高等学校	教諭
	茂原農業高等学校後援会	副会長		茂原農業高等学校	教諭
	茂原農業高等学校	校長		茂原農業高等学校	教諭
	茂原農業高等学校	教頭		茂原農業高等学校	教諭

6 活動の評価方法

1単位分の総合的な学習の時間の実施にあたって、その趣旨を生徒に十分理解させ「豊かな体験活動」の一環であることを認識させるとともに、学期ごとに感想文等を提出することで生徒の興味関心、思考判断を把握することとした。また、交流事業の前後に参加する児童生徒にアンケートを実施し、心の変化を把握することに努めた。3学期には、全校職員を対象にした学校評価アンケートの中に「豊かな体験活動の推進ができたか」という項目をもうけ評価した。その結果職員間で高い評価を得ることができた。

終わりに

本推進事業の趣旨を踏まえ、学科コース等の枠を越えた広い範囲のテーマで活動できたことは、生徒にとって新しい体験であったと思われる。特に土に触れることの少なくなった今、野菜の栽培や家畜とじかに触れながら学習できたことは、心の優しさ、豊かさを充分育むことが出来たと思われる。また、いくつかの交流会を通して、生徒たちが生き生きと活動していたのが印象的であった。交流事業を通して、地域との相互理解が深まり、地域に開放された学校づくりに貢献できたと思われる。これらの活動を生かし、次年度へ継続していきたい。